

須賀川市立小中一貫教育校「稲田学園」令和2年度学園だより

# とう りん 稲 雲 第24号

令和3年3月22日発行

発行者：校長 小貴 崇明



## ○稲田小最後の卒業生～29人が前期課程を修了～

6年生29名の皆さん、卒業おめでとうございます。今年度は4月当初より新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校が2ヶ月近く臨時休業となり様々な学校行事や校外行事が中止・延期を余儀なくされました。そんな中、なんとか運動会や修学旅行などは時期をずらして開催することができました。もちろん、今回の卒業式も開催が本当にできるのかと不安になる時があるほど、コロナ禍による社会不安が今も続く中で、なんとか実施にこぎつけることができそうです。4・5年生、そして保護者の皆様の参加できることも本当にうれしい限りです。そんな厳しい状況の中で卒業式を挙げるわけですから、卒業生の皆さんは、卒業の喜びをより強く心に刻んで式に臨むのではないのでしょうか。(上の写真は、宮城県方面への修学旅行の1コマ)



本校は4月から9年制の義務教育学校に移行することから、今回が稲田小として最後の卒業式になります。このような稲田学園の歴史の大きな節目の卒業生であることに誇りを持ち、義務教育学校を動かす立派な7年生・中学生になって下さい。

(左の写真は、卒業式別れの言葉の練習での一コマ)

## ○6年生全員deフルマラソン～2時間38分39秒の感動～

3月16日(火)、稲田学園恒例の「6年生全員 de フルマラソン」を朝から開催しました。200mトラックを6年生全員と他の学年の児童や先生方の「助っ人」の方々が襷(たすき)をつないで、42.195km走ろうという卒業記念企画です。全部で211周走らなければ達成できませんが、お昼前に見事ゴールすることができました。記録は2時間38分39秒。6年生と先生方、そしてお手伝いで走った下級生も含め1人1人が一生懸命走ったその積み重ねが、今回の好記録につながりました。ゴール場面では、1年生から5年生も応援に駆けつけ、校庭は運動会以来の盛り上がりでした。閉会式は、完走できた達成感、仲間への感謝、そして6年生の一体感を強く感じるすることができました。お疲れ様でした!



## ○6年生ありがとうの会～下級生による心温まるおもてなし～

2月26日(金)、1年生から5年生が今までお世話になった6年生に対して感謝の気持ちを伝え、ゲームで楽しいひとときを過ごしたり、鼓笛や登校班の引き継ぎを行ったりする「6年生ありがとうの会」を実施しました。5年生が中心となって進められたこの集会では、学年ごとに役割分担があり、6年生への感謝の気持ちをゲームや歌などで伝えていました。特に、みんなで歌った『炎(ほむら)』の替え歌には、楽しかった学校生活が表現されていました。また、鼓笛隊の新旧指揮者による移杖式(鼓笛の指揮をする杖を受け渡す)が行われ、5年生が中心となった新鼓笛隊によって、稲田小校歌と新しく稲田学園の校歌となる「HOME」が堂々と演奏されました。笑顔あふれる心温まる集会でした。



メダルをもらう6年生



じゃんけんゲーム



移杖式



5年生中心の鼓笛隊

### ★ことばのちから(24)「一斉か個別かではなく、『つながっているのか』というのが一番大切！」

よく古い教育は「一斉授業」で、今は「個別指導」が重要だと言われています。確かに、1人1人の子どもに目を向け寄り添う指導は大切ですし、稲田学園の先生方も安易な一斉授業をしようとは思っていません。しかし、子どもの充実した学びを生む授業を「一斉」か「個別」かに分けることは極論です。というのも、一部の子どものみに関わる個別指導ではその他の子どもはどうなってしまうのかという課題も生まれます。また、見た目は一斉でも子どもたち全員が教師の問いかけに真剣に向かい合い教育効果の高い授業もたくさんあります。

そこで大切なのが、子どもたちの「つながり感」だと考えます。1人1人が個性の強い集団、一見バラバラに見える集団でも、最終目標を共有しそれぞれが持ち味を發揮しながらみんなで向上できれば、すばらしい集団ということが出来ますし、そこには人間的な「つながり感」が存在すると思っています。「お互いの良さを認め合う一体感」とでも言い換えられるでしょうか。実際に教師と子どもたち1人1人がつながっていて、子ども同士もつながっている学級や授業を私は何度も感じてきました。そしてそんな学級では、もちろん学力も向上します。

4月から稲田学園は義務教育学校になります。稲田学園では、この「つながり感」を大切にしたい9年間の学びが重要だということを意識し学校づくりを進めていきます。

**御礼** 1年間、この学園だより『稲雲』をご愛読いただきありがとうございました。9学年にもわたる子どもたちの学校生活を発信するには号数が足りないというご不満もあるかと思いますが、これからでもできる限り、子どもたちの学校での姿や活躍を発信してまいります。

義務教育学校へと移行後も、小中一貫教育校としての3年間の実践を生かし、地域の宝である子どもたちのため、「9年間の学び、9年間の一体感、そして9年間の感動を創造する学校」としてさらに発展させてまいります。令和3年度もご理解とご協力をよろしくお願いいたします！